

Facebook を活用した情報発信方法

山守 一徳

三重大学 教育学部

誰もが情報発信できる時代となり、SNS でのネットワークコミュニケーションを楽しむ人が増えている。その中で現在、日本では Facebook が流行し、多くの人々が Facebook で情報発信したり、書き込み記事を読んで情報収集したりしている。そのため、自治体の中でも Facebook を利用したホームページを作成し、より多くの人に読んでもらおうとしているところも出てきている。そこで、自分のホームページを Facebook と連携し、読者を増やすための方法を述べ、最後に今後の動向について考察する。

1. はじめに

Facebook は、2004 年に米国の学生向けにスタートし、2006 年 9 月に一般に公開、その後急速に会員数を増やし、日本では 2011 年 9 月時点で 1000 万人の会員を獲得している。SNS のサーバの中でも利用者が多いため、mixi の利用者も Facebook へ乗り換える程の人気を博している SNS である。日本では、OpenPNE や OpenSNP 等の無料の SNS ソフトが存在し、数年前には地方ごとにそれらのソフトを使った地域 SNS が多数立ち上がっていた。(地域 SNS は、2010 年には 519 個まで存在した。) 現在は、利用者の拡大が Stop し、その運用の費用負担等の理由から閉鎖された地域 SNS も増えている。それ以前の 2006 年頃には全国版の SNS である mixi が流行し、2010 年頃には mixi と地域 SNS との両方が稼働していた。(mixi は 2007 年 5 月に会員数が 1000 万人を超えている。) この SNS 流行の背景には、それ以前に掲示板と呼ばれるサービスで意見交換することが始まっていたが、意見を誰からも受け入れられる設定にした場合に、誹謗中傷に近い書き込みが発生したり、商品売り込みのための全く関係のない書き込みが発生したりして、良識ある人のみから意見をもらいたいという意識が働いたため、会員のみ書いたり読んだりできる SNS が望まれたという背景がある。まず全国版の SNS である mixi が掲示板の次に流行し、地方でも特色のあるローカルなコミュニケーションを図れるようにと地域活性化と銘打って地域 SNS が流行した。その後、参加者増の勢いが失せると、参加者の多そうな Facebook へ乗り換えが進んだという時代背景がある。Facebook の参加者はネット利用の頻度が高いユーザ層であり、その方々へ情報を見てもらおうと Facebook と連携してのホームページが多くの組織で作られるようになった。

Facebook には Facebook API が存在し、連携向きの機能が提供されている。有名なものに OAuth 認証と呼ばれる機能があり、他サイトでのユーザ認証が成功している者には、そのサイトと Facebook が情報交換することによって、Facebook のユーザ認証をせずに Facebook 内へ情報を書き込んだりできるようにする機能がある。他には、Facebook の特定ページの記事を他サイトの中に見えるようにする機



図1 武雄市のホームページ



図2 松阪市のホームページ内の市民枠
(後半中央部分)

能や、逆に他サイトのページを Facebook の中で見せるようにする機能もある。自治体のホームページを Facebook の中に作成したと言われることで有名な武雄市のホームページは、他サイトでの HTML によるページを Facebook の中で見せるようにし、そのページをトップページのようにした(図1参照)。市民からの書き込みを受け付けるページを Facebook の中に作り、市民と職員との情報交換を図ろうとしたものである。松阪市のホームページでも同じような考えの下、市民からコメントをもらえる Facebook ページを創設し、その中の記事は市から認定された団体によって書き込みをしてもらい、「市民との情報の架け橋」と称する活動¹⁴⁾を行っている。その Facebook のページを松阪市のホームページのトップページの一部に枠を設けて表示させ、市民枠と称している(図2参照)。三重地方のローカルな SNS であるみえちん+SNS¹⁵⁾も Facebook と連携し、書き込み記事が SNS の中と Facebook および Twitter の中に同時に書き込まれるようになっている¹³⁾¹⁴⁾(図3参照)。以下では、これらの実現方法について述べることにする。

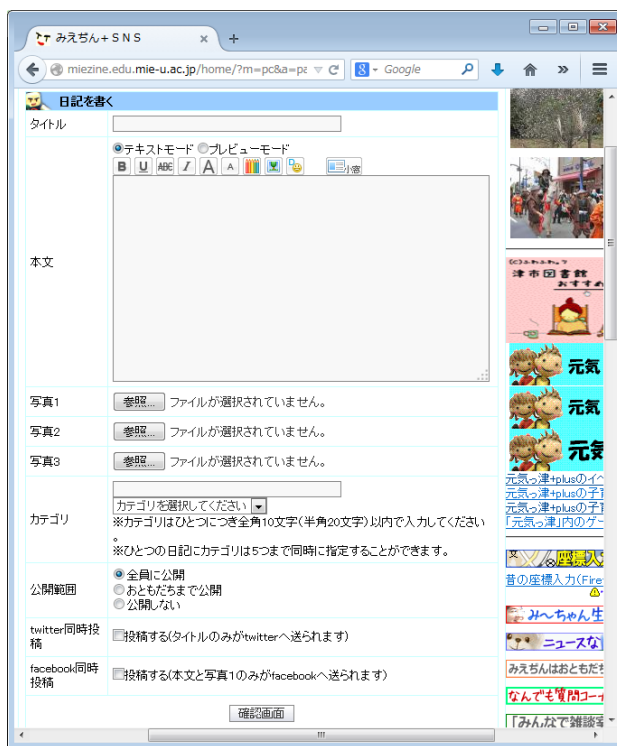


図3 みえちん+SNS の日記投稿ページ
(チェックボックスによる同時投稿制御)

2. トップページを Facebook ページにする方法

武雄市のホームページのようにトップページを Facebook の中に見せる方法を述べる。Facebook ページに、HTML 等で記述した独自のページを加えるには、インラインフレームと呼ぶ方法を用いる。

Facebook は会員が日記を書き、会員間で記事を読み合い、コメントを付けたりして交流するページが基本である。書き込んだ記事は、基本的に時間順で管理され、マイページの中には、記事やコメントを書いた時間順に友達の記事が見えてくる。それに対して、静的なページを見てもらいたい場合には、そのための HTML ページを別サイト上に作成公開し、そのページを Facebook の中にはめ込んで表示することになる。制約があり、別サイトで作る HTML ページは <https://> で見えること、横幅が固定サイズ 520px または 810px である必要がある。横幅が大きい場合は、図 4 のように切れて表示される。縦方向は大きい場合、スクロールバーが付いて表示される。

暗号化された SSL 通信を使って <https://> で見えるようにするには、WWW サーバのサーバ認証が必要となる。SSL 通信を提供している有料の WWW サーバを利用する手もあるが、費用を掛けたくない場合は、大学では国立情報学研究所(NII)が行っている全国大学共同電子認証基盤構築事業 (UPKI) 中の UPKI オープンドメイン証明書自動発行検証プロジェクト (CERPJ) を利用する方法がある。このプロジェクトでは参加機関のサーバに対してサーバ証明書の発行を行っている。

このインラインフレームの設定方法が、頻繁に変わっており、Google 検索で見つかるページの設定の仕方では、情報が古くて適用できない場合が多いので注意が必要である。

(1) 設定手順

まずは、Facebook ページを作成する。これは、Facebook にログインし、ホームのページの左側の「Facebook ページを作成」のリンクをクリックする。そこで、「地域ビジネスまたは場所、会社または団体、ブランドまたは製品、アーティスト、バンドまたは著名人、芸能・エンタメ、慈善活動またはコミュニティ」の選択アイコンが表示され、ここでは例えば、「慈善活動またはコミュニティ」を選び、そのコミュニティの名前を名付けて、「スタート」ボタンを押して Facebook ページを作成する。

次に、作成した Facebook ページの中で、右上の「設定」メニューを選ぶと、下の方に、「開発者」のリンクが表示され、その「開発者」をクリックする。開発者用のページ (<https://developers.facebook.com/>) が現れ、左上の「My Apps」のメニューの中、「Add a New App」のサブメニューを選ぶと、「新しいアプリを追加」とポップアップウィンドウが出て、「iOS Android Facebook キャンパス ウェブサイト」の 4 択アイコンが表示されるが、その下の「advanced setup」をクリックする。

図 5 の画面が現れ、Display Name の欄に文字列を入力する (例えば MyAppsName) この文字列は「My Apps」のメニューのサブメニューの中に現れ、自分で作ったアプリを区別する名前となる。カテ

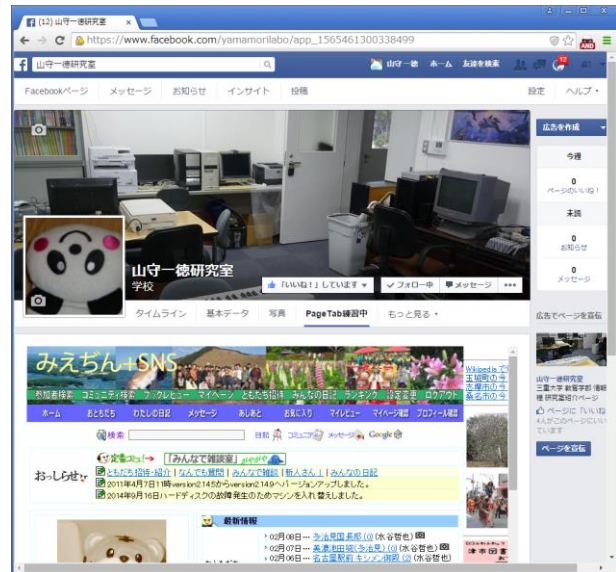


図 4 横幅大のページをはめ込みした例

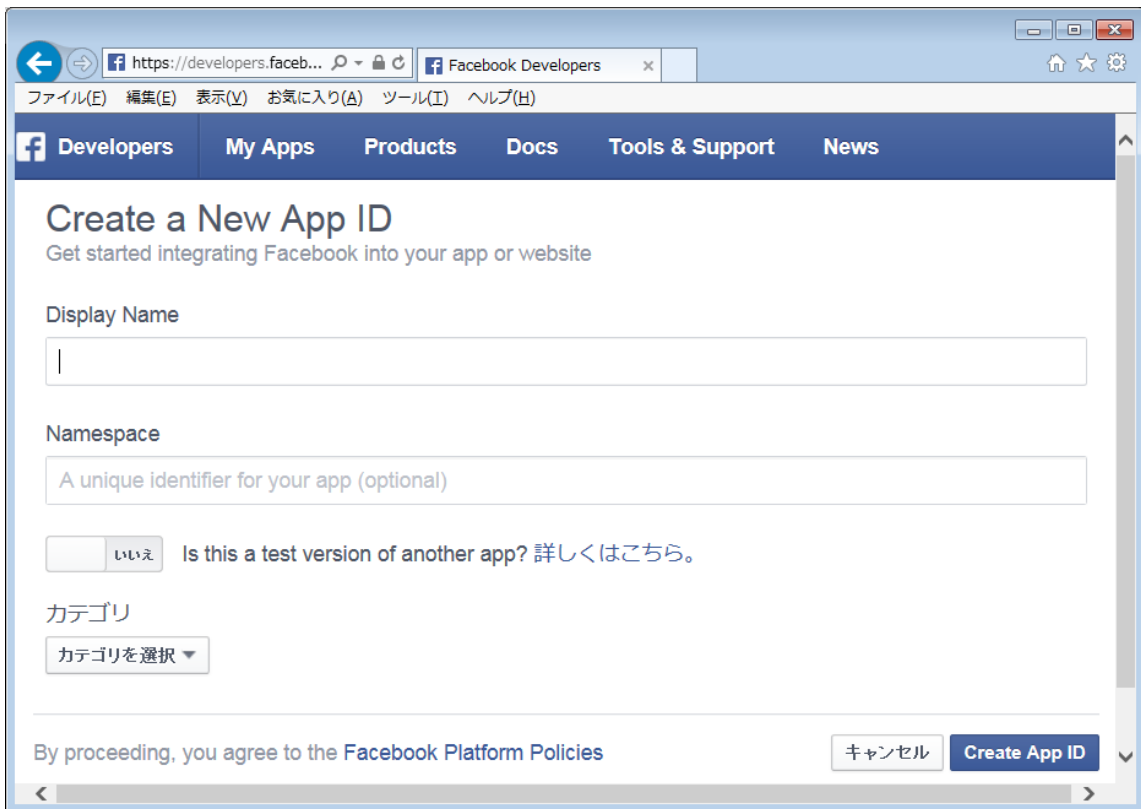


図5 新しいアプリを作成するページ



図6 作成したアプリのダッシュボード

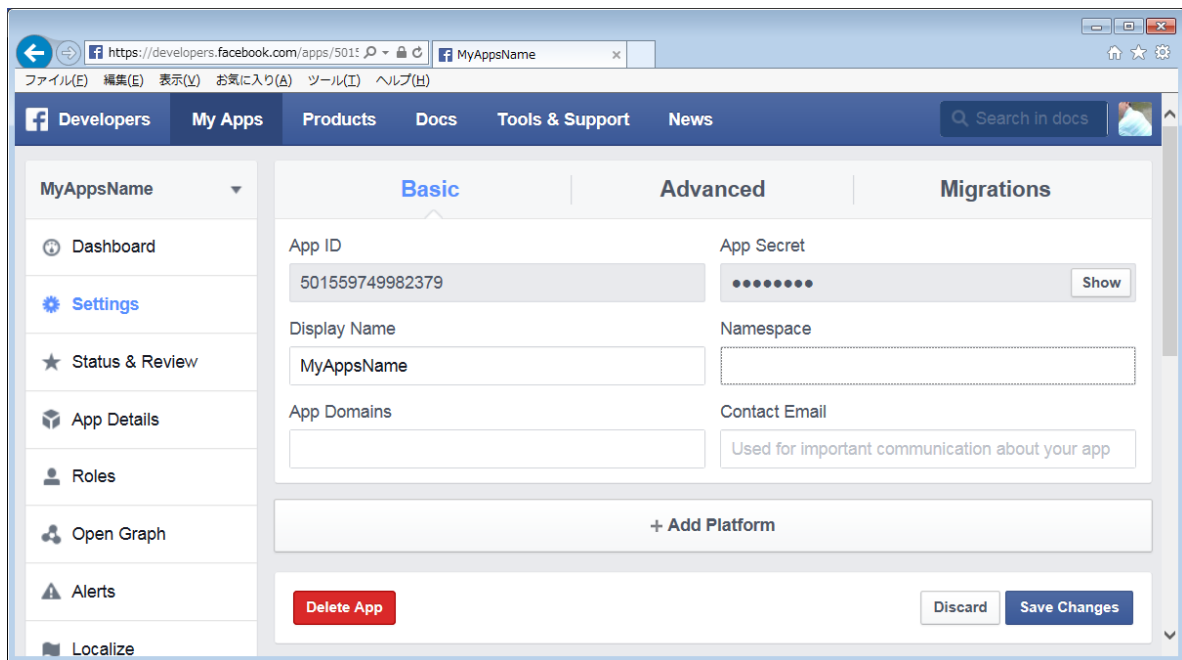


図7 Settingsの画面

ゴリの欄で、例えば「コミュニケーション」を選び、「Create App ID」のボタンをクリックする。

図6の画面が現れ、左側の「Settings」を選ぶと図7の画面が現れる。ここで、Contact Email欄に管理者のメールアドレスを入力し、下の方の「+Add Platform」ボタンをクリックする。

図8の画面が現れ、「Facebook Canvas, Website, iOS, Android, Windows App, Page Tab, Xbox, PlayStation」の選択肢が表示され、その中の「Page Tab」を選ぶ。

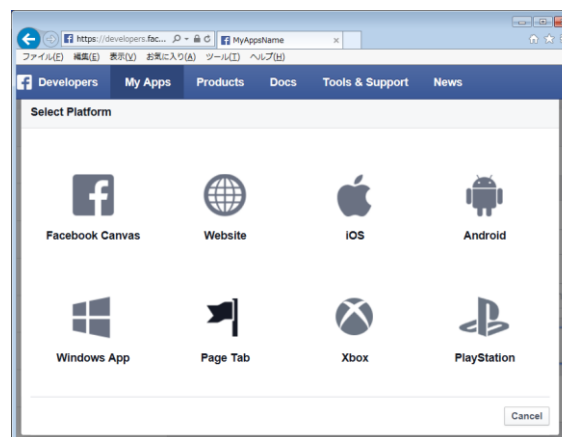


図8 PageTabを選ぶ画面

図9のPageTabを設定する画面が現れ、Page Tab Name にタブ名を入力する（例えば、

MyPageTabName)。この名前は、Facebook ページの中の上の方のタブ表示の中に現れる名前となる。続いて、Secure Page Tab URL の欄に https://で始まる埋め込みページの中身の URL を記述する（例えば、https://miezine.edu.mie-u.ac.jp/home/ ）その後、「Save Changes」ボタンを押す。

ここまでで、図6の左側の「Status&Review」を選んだ時に現れる「Do you want to make this app and all its live features available to the general public?」の右側のボタンの「No」をクリックし、「Yes」が表示された状態にすれば、公開状態にすることができるが、公開するのは後からが良い。

次にFacebook ページのページタブとして追加する。図6のAppIDの値（ここでは、501559749982379）を使って、http://www.facebook.com/add.php?api_key=[AppID]&pages=1 へアクセスする。（ここでは、

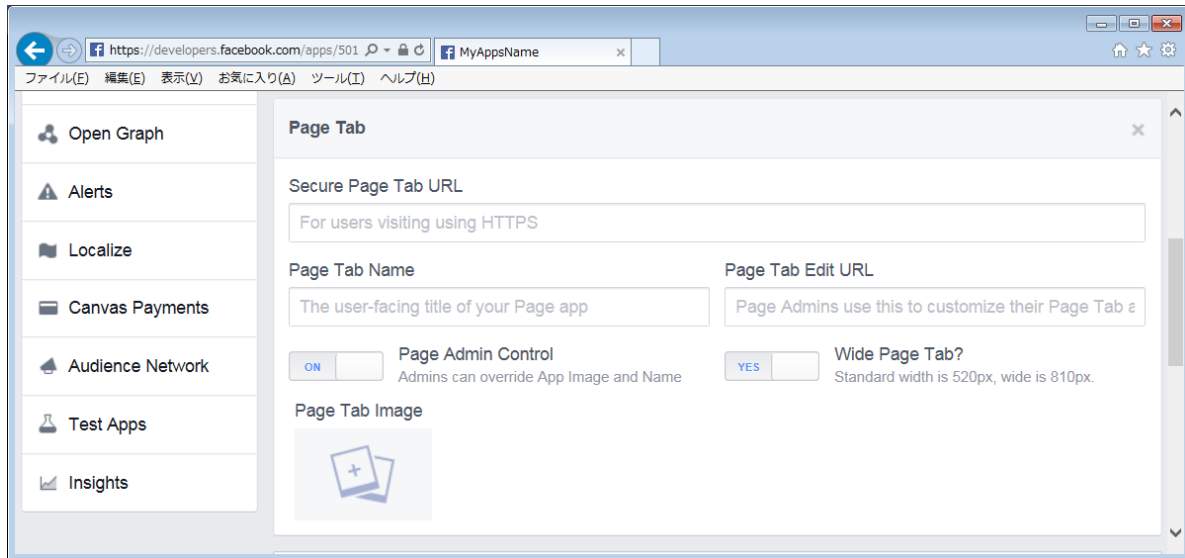


図9 PageTabを設定する画面

http://www.facebook.com/add.php?api_key=501559749982379&pages=1) Facebook ログイン成功中ならば、図5で入力した Display Name (ここでは MyAppsName) の値から、「MyAppsName を追加する Facebook ページを選択してください」と表示され、その下の箇所、自作した Facebook ページを選び、「ページタブを追加」ボタンを押すと、その Facebook ページの左側の「アプリ」のセクションの中に追加したページタブネーム (ここでは MyPageTabName) が見えるようになる。

これで [https://www.facebook.com/\[Facebookページ\]/app_\[AppID\]](https://www.facebook.com/[Facebookページ]/app_[AppID]) のような URL で見えるようになるが、これを [https://www.facebook.com/\[Facebookページ\]](https://www.facebook.com/[Facebookページ]) のような URL で見えるようにするために、図6の画面に行き「Getting Started」ボタンを押す。

図10の選択肢が現れ、Facebook キャンパスを選択すると、図11の画面が現れる。キャンパスページの下の欄の「<https://apps.facebook.com/>」の右側に URL の一部となる文字列 (例えば、myapptoppage) を入力し、その下の「Secure Host URL」の下の欄には、埋め込みページの中身の URL を記述する (例えば、<https://miezine.edu.mie-u.ac.jp/home/>) その後「次へ」ボタンを押す。

図12の画面が現れ、下の方の「Congratulations! You have added the Facebook SDK to your project. You are now in the next stage in integrating your app with Facebook. What do you want to do next?

[Skip to Developer Dashboard](#) or [Documentation](#)」と表示されている箇所の、[Skip to Developer Dashboard](#) をクリックする。

以上で、<https://apps.facebook.com/myapptoppage> の URL でアクセスできるページが完成する。最後にこのページを図6の左側の



図10 Facebook キャンパスを選ぶ画面

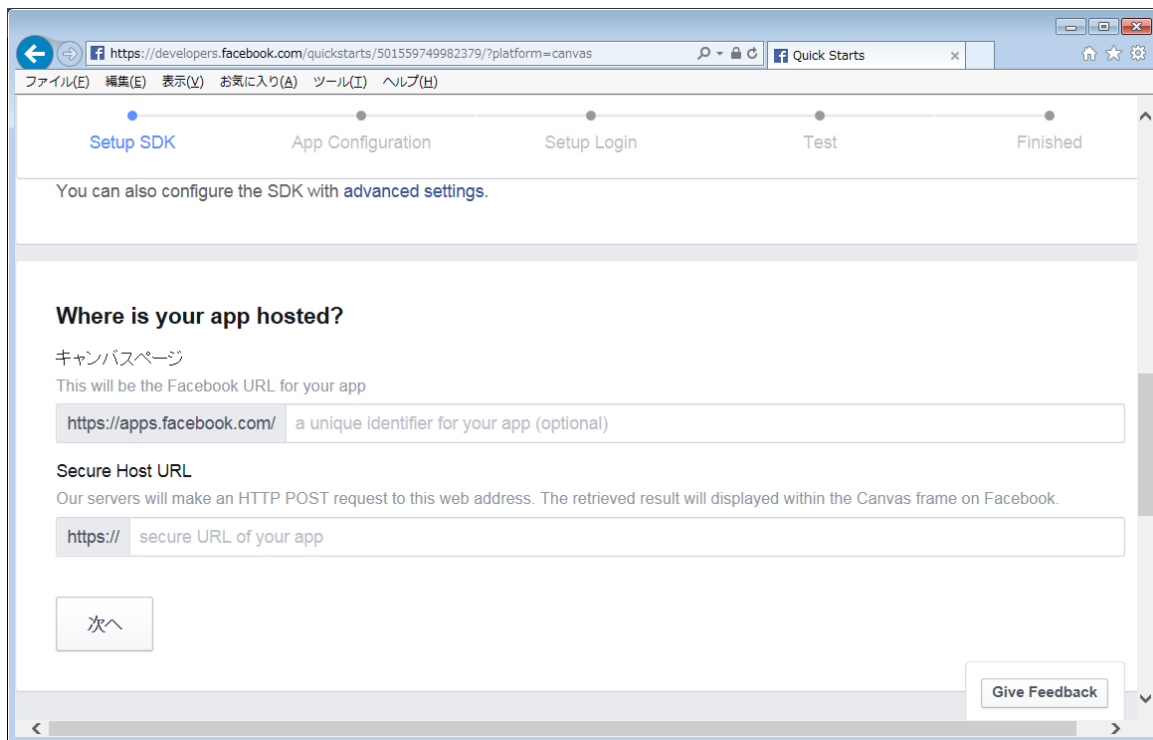


図 1 1 Facebook キャンパスの設定画面

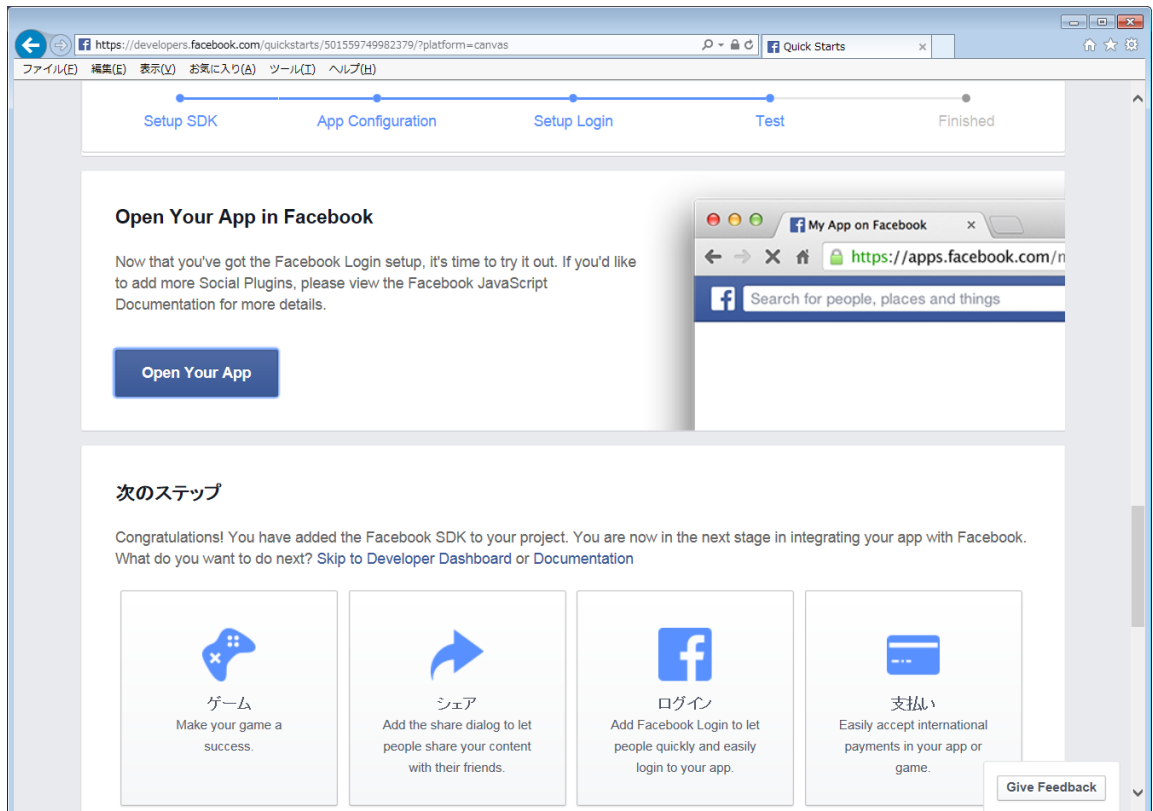


図 1 2 Facebook キャンパスの設定続き画面

「Status&Review」を選んだ時に現れる

「Do you want to make this app and all its live features available to the general public?」の右側のボタンの「No」をクリックし、「Yes」が表示された状態にして公開状態にする。

図 1 3 に完成したページを示す。



図 1 3 完成したページ

3. ホームページの中に Facebook 記事を埋め込む方法

松阪市のホームページのように Facebook のサイトをホームページ内の一部として見えるようにする方法について述べる。これは iFrame 機能（インラインフレーム機能）と呼び、実現は容易である。Facebook の中の記事の書き込み役を複数にする場合が大変であり、Facebook アカウントを複数の人に渡すことになる。そして誰が書き込んだかわかるようにするために書き込みルールが必要となる。この記事に対するコメントは、ホームページ内の表示部分には反映されず、Facebook のサイトのページを直接見に来た人にのみ見えるようになる。

(1) 埋め込むコードの取得方法

https://developers.facebook.com/docs/plugins/like-box-for-pages?locale=ja_JP にアクセスし、「Facebook Page URL」の欄に Facebook ページの URL（例えば、<https://www.facebook.com/yamamorilabo/>）を入力し、「Show Posts」のチェックを入れて、「Show Friends' Faces」のチェックをはずし、「Get Code」ボタンを押す。

```
<div id="fb-root"> </div>
```

```
<script>(function(d, s, id) { var js, fjs = d.getElementsByTagName(s)[0];  
  if (d.getElementById(id)) return; js = d.createElement(s); js.id = id;  
  js.src = "//connect.facebook.net/ja_JP/sdk.js#xfbml=1&appId=501559749982379&version=v2.0";  
  fjs.parentNode.insertBefore(js,fjs); } (document,'script','facebook-jssdk')); </script>
```

を HTML ファイルの<body>タグのすぐ後ろぐらいに書き、

```
<div class="fb-like-box" data-href="https://www.facebook.com/yamamorilabo/" data-colorscheme="light" data-show-faces="false" data-header="true" data-stream="true" data-show-border="true">  
</div>
```

を HTML ファイルの Facebook ページを埋め込みたい位置に書けば良い。<iframe>タグを使って書く方法もある。

4. ホームページの中にいいねボタンを埋め込む方法

Facebook のいいねボタンがホームページに現れ、いいねボタンを押すと、何人の人がいいねを押しているかがわかり、Facebook のサイトからは誰がいいねボタンを押しているかも見ることができるよ

うになる。

(1) 埋め込むコードの取得方法

開発者用のページ (<https://developers.facebook.com/>) にアクセスし、上の方の「Docs」のメニューの中、「Social Plugins」のサブメニューを選択する。「いいね！」ボタンと書いてあるリンクをクリックし、「URL to Like」の欄に、いいねを押してもらいたいページのURL (例えば、<http://www.cc.mie-u.ac.jp/~lv2013/>) を書き、「Show Friends' Faces」のチェックをはずす等、表示される形を選択して、「Get Code」ボタンを押す。

```
<div id="fb-root"> </div>
```

```
<script> (この中身は3章と同じであるため略) </script>
```

を HTML ファイルの<body>タグのすぐ後ろぐらゐに書き、

```
<div class="fb-like" data-href="http://www.cc.mie-u.ac.jp/~lv2013/" data-layout="standard" data-action="like" data-show-faces="false" data-share="false"> </div>
```

を HTML ファイルのボタンを貼りたい位置に書けば良い。3章と同様に、<iframe>タグを使って書く方法もある。

5. 他サイトでの書き込みを Facebook 内の記事へ同時に書き込む方法

みえぢん+SNS や元気っ津+Plus の SNS のように OAuth 認証を使って、他サイトでの書き込み記事を Facebook にも書き込む方法について述べる。ただし、応答が非常に遅いため、お勧めではない。

まず、みえぢん+SNS や元気っ津+Plus の SNS (コンシューマー) を Facebook (サービスプロバイダー) に登録を行い、Consumer Key と Consumer Secret という値を Facebook から事前に取得する。これにより、サービスプロバイダーが、コンシューマーに OAuth 利用許可を与えることになる。実際に利用者がコンシューマーを通してサービスプロバイダーのサービスを利用する時は、Consumer Key と Consumer Secret を元に、やり取りがあった後に、アクセストークンをサービスプロバイダーが発行し、そのアクセストークンを使って Facebook に投稿することができるようになる。

ユーザ認証させる場所は、

```
$url='https://www.facebook.com/dialog/oauth?client_id=$application_id&redirect_uri=urlencode($redirect_uri )&scope=publish_stream';
```

のような URL を使って、header("Location: \$url"); の関数でリダイレクトさせるようにする。

アクセストークンを取得するのは、

```
$url = 'https://graph.facebook.com/oauth/access_token?client_id=$application_id&client_secret=$application_secret&code=$_GET['code']&redirect_uri=urlencode($redirect_uri);
```

のような URL を使う。

アクセストークンの取得後には、

```
$ch = curl_init();
```

```
$params = 'access_token=' . urlencode($access_token);
```

```
$params .= '&message=' . urlencode( 記述文 );  
curl_setopt($ch, CURLOPT_URL, 'https://graph.facebook.com/me/feed');  
curl_setopt($ch, CURLOPT_POSTFIELDS, $params);  
curl_setopt($ch, CURLOPT_POST, 1);  
curl_setopt($ch, CURLOPT_RETURNTRANSFER, 1);  
$resp = curl_exec($ch);  
curl_close($ch);
```

のようなコードで Facebook に書き込みを行う。

6. Facebook の今後

SNS 疲れと呼ばれる症状が出始めており、熱心にアクセスしているユーザが自分の時間を取られることにより疲労感が出てきている。あまりに多くの情報が流れ、多くの話題に興味を持たされてしまい、あれもこれも頭の中に情報が入って来るため疲れが出てしまう。テレビの場合は見えているチャンネルを1つ選んでぼんやりと見流していることができるが、ネット利用者は積極的に情報を得ようとするため、時間が取られ、様々な情報を取捨選択していくため疲れが出る。知人の書き込みに対して丁寧に返答しようという責任感の強い人ほど、疲労感が出ると思われる。本来、人間は安心の境地に入りたいために、物事を深く突き詰めて悟っていかなければならないと思う。そのためには集中して頭を使っていかなければならない。ネットを使う場合、物事を突き詰めて行く方向へ情報が得られれば良いが、どちらかと言うと、話題の広がる方向への情報しか得られない。検索を繰り返しても深い情報の所へ辿り着くには至難の業であり、なかなか見つからないため疲れが出てしまう。若者らが行っている LINE による情報交換も然り、浅い会話で時間を取られ、繋がりが大事とばかりに気を取られている。深い友達付き合いは LINE だけではできず、現実社会での活動がないと真の友達が得られないものである。

よって、Facebook も疲れがわかってくと衰退していくと推測される。実名での発信による怖さも知り、匿名で利用できる Facebook に対抗した新しい SNS も出始めている。一方、商品を売り込もうとする業者の方は、より見てもらおうとして Facebook への参入が増えると思われる。Facebook に登録されるデータ（住んでいる市町村、性別、年齢、興味の対象等）を使ってターゲットを細かく指定して広告を出すことができるようになっている。mixi の場合、会員の招待性を止めてから、業者の商品の売り込みのような記事が増え衰退を招いたとも言われている。商品の売り込みを見ることに自分の時間を取られて嫌気が差していくのである。Facebook の場合も情報が氾濫しすぎているので、嫌気が差されないように注意が必要である。と言っても Facebook 運営者には意見が届かないと思うが、利用者としては自分の時間を取られないように注意すべきである。

また現状の Facebook の場合、利用していて Facebook の応答が遅すぎる所が難点である。これは、ケータイ向けの Facebook の URL (<https://m.facebook.com/>) を PC のブラウザで見れば、ネットワークが遅い時に見やすくなるが、改良して欲しいものである。

7. SNS 衰退の考察

地域 SNS の衰退理由は、参加者増の勢いが止まり、日記を書いても同じ人からのみ見られていることで、書く側の意欲が失せていったため、他の流行している SNS へ書く場を移していき、急速に新しい記事の件数が減り、拍車を掛けるように読み手も他の SNS へ移っていったことにあると思う。全国版 SNS の mixi の場合は、知らない人からのコメントの応対に追われる中、Facebook が流行し、Facebook が実名登録制であるため、知人が参加しているかもしれないと知人を探す楽しさも加わって、Facebook に参加し、多くの情報が得られる楽しさから Facebook でも記事を書き、mixi を忘れ去ることになっていったのだと思う。

現在、LinkedIn と呼ばれるビジネスのための SNS が流行し始めている。企業で使われ始めているようである。こちらは知人が LinkedIn に入っていないかを知人のメールアドレスをキーワードにして検索すると、そのメールアドレスへ「LinkedIn つながりリクエスト」と称するメールが知人へ飛んでしまうようである。すなわち、LinkedIn の中にメールアドレスが蓄積されていっていることになる。これから先、新しいコミュニケーションツールができると、確かめるために入ってみることが起きる。個人の情報が各サイト内に蓄積されていって、自分をネット上にさらけ出していっている訳で、知らない間に情報流出が起きていっている。その中で、業者が目を付け、より多くの人に商品を見てもらうように、ひたすら参入してくると思われる。SNS サイトを運営する側も、利用者の興味を惹く商品を個々の利用者へ合わせて提示していくことが望まれる。

8. おわりに

動画に特化した YouTube、つぶやきに特化した Twitter、日記に特化した Facebook が現在の時点で流行しているが、利用者は多くの時間を取られることに閉口している。利用者の興味を把握しているサイトへ業者は広告を出したいため、その能力を持つサイトは収入を得て生き残ることができる。自分のホームページやブログを持っている一般の利用者達は、より多くの人に読んでもらえるように、Facebook が流行している間は Facebook との連携が進むであろう。尤も読者に魅力のある内容を情報提供しなければ連携しても読まれないままではある。非常に多くのページが氾濫する中で、惹きつける物や見せ方に関する工夫は必要である。自分自身のページの中での整理や見やすさを良くすることは言うまでもない。

また、スマートフォン向きのサービスが増えており、10 秒動画コミュニティの MixChannel、ライブ配信が行える TwitCasting、写真共有サービスの Instagram、携帯電話向けブログサービス DECOLOG などが若者に広まっているため、Facebook もケータイでの利用が増えると思われる。

参考文献

- (1) K.Yamamori and M.Kobayashi: Combining Administrative Power and Resident Power through Cooperative Public Relations via CMS and Facebook, 2014 International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education, and e-Technology(e-CASE & e-Tech

2014), pp.502-506 (2014.4)

- (2) 山守一徳: SNS の追加機能の評価, 第 12 回情報科学技術フォーラム (FIT2013) , O-052 第 4 分冊 pp.643-646 (2013.9)
- (3) 山守一徳: OpenPNE2 から Facebook への同時投稿, 平成 24 年度電気関係学会東海支部連合大会, B3-3 (2012.9)
- (4) 山守一徳: OpenPNE2 から Twitter への同時投稿, 平成 23 年度電気関係学会東海支部連合大会, G1-5 (2012.9)